

元関西支部長，名誉会員，功労章受章者

横尾 義貫先生のご逝去を悼む

先生は、佐賀県のご出身で、昭和14年京都帝国大学工学部建築学科を卒業され、佐世保海軍建築部に勤務、昭和17年京都帝国大学助教授、昭和24年に京都大学教授に就任されました。名古屋大学建築学科創設に伴い、昭和39年より3年間名古屋大学教授に配置換えになりました。昭和52年京都大学を退官後、豊橋技術科学大学副学長および教授に就任され、昭和60年退官されました。京都大学名誉教授および豊橋技術科学大学名誉教授になりました。

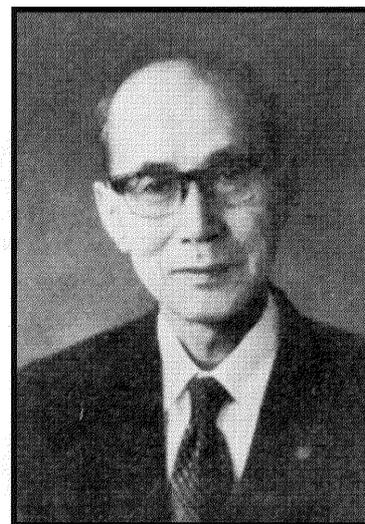
昭和45年度土質工学会関西支部長、同45～46年度土質工学会参与を務められ、昭和54年土質工学会功労章を受章されました。昭和53年より日本学術会議第11期会員を務められ、昭和62年勲二等瑞宝章を受章されました。平成3年より財団法人日本建築総合試験所理事長および顧問を務められました。

先生のご研究には、局面板構造の解析、一般構造物の極限解析および弾塑性解析、鋼構造物の挙動解析に代表される上部構造に関するものと共に、基礎構造に関するものがあります。後輩の多くの基礎構造研究者を指導育成され、これらの研究者と共に、建築骨組の剛性を考慮にいたした地盤の圧密沈下による建築の不同沈下解析、剛塑性解析による基礎の極限支持力の解析、圧密の数値解析法の開発等の研究を行われました。また名古屋地盤図の編集推進をされました。

個人的な思い出になりますが、筆者が京都大学大学院博士課程の学生の時、ゼミで V. V. Sokolovski の *Statics of Soil Media* を読み、1対1のご指導いただきました。また、先生の指導下に Prager の *An Introduction to Plasticity* を多くの学生と輪読いたしました。先生の整然としたわかりやすいご説明を思い出します。亡くなられる数年前、関西空港の支持地盤である洪積粘土の圧密沈下についての疑問点・問題点について議論させていただいたことがありましたが、後輩の研究テーマの参考になるよう、常に新しい課題を示される等、晩年におかれましても後輩に対し、懇切な指導、配慮をいただきました。

先生は酒の席等で工学分野以外の話もよくされました。例えば30年程度前の事ですが、中根千枝東京大学名誉教授の「タテ社会の人間関係」を紹介され、「縦社会の横働き」として日本の縦社会での横方向の連携による新しい仕事の進め方等、横方向の連携の重要性を話されました。後輩に工学分野の議論とは異なる、しかし社会への貢献において重要な認識をこのような席で与えてくださいました。

心からご冥福をお祈り致します。



(長岡弘明 京都大学名誉教授)
社団法人 地盤工学会